

「福島県写真帖」

当館に所蔵されている『福島県写真帖』は、明治41(1908)年と大正5(1916)年、同13(1924)年に作成されたモノクロの写真集である。いずれも当時の皇太子が東北地方を行啓されたことを記念して、福島県が編集した。今回ご紹介する明治41年版(福島県/編, 田村鐵三郎, 大畑泰助/写真 児童新聞社)は、明宮嘉仁親王(後の大正天皇。巻頭に肖像写真が掲載されている)が同年初秋に行啓された当時の福島県各地を、写真で知ることができる貴重な資料である。

栃木県日光から特別列車で福島県入りされた皇太子は、県内を前半8日間の日程で白河町内、猪苗代湖畔の有栖川宮別邸、猪苗代、若松市、舟津浜、二本松、川俣、福島市、伊達郡を行啓された。その後東北各県をご巡啓の後に、帰路、2日間の日程で原町にて野馬追をご観覧の後、双葉郡富岡を経て帰京された。

『福島県写真帖』もほぼこの旅程の順に沿って、52か所の写真が掲載されている。

写真とその説明書きをもとにして内容を分類してみたい。

一番多いのは、学校(福島県師範学校ほか)で10か所。次いで産業関係(双松館ほか)が9か所。神社・仏閣(信夫文字摺石ほか)、史跡関係(白虎隊十九士墓)が各7か所。公園(南湖ほか)、市街地の俯瞰風景(若松市ほか)、自然の風景(猪苗代湖ほか)が各4か所。温泉地(湯本温泉ほか)と宿泊所(有栖川宮威仁親王殿下御別邸ほか)が各3か所。そして残りが1か所(歩兵第六十五連隊兵営)である。

行啓の詳細は『皇太子殿下行啓記念帖』(福島県庁内務部/編・発行 1910年)に記載されている。それによると、亀ヶ城址や舟津には皇太子と有栖川宮が自動車でご訪問された。(ちなみに、県内で初めて自動車が走ったのは、前年のことであり、その際も有栖川宮がご乗車された。)また、県庁ご宿泊時には、阿武隈川対岸の弁天山中腹に、雨の中「奉迎」の火文字が掲げられた。14日には泥道の中を靈山に向かわれ登山をされたが、折悪しく大雨になってしまい、東宮大夫の進言により途中で引き返された。

同書からは『福島県写真帖』掲載52か所のうち、郡山など24か所は、未訪問であった一方、実際に行啓されたのにも関わらず、舟津のように写真帖に収められなかった場所もあることが分かる。一体なぜだろうか。

『福島県写真帖』は福島市立図書館に寄贈、受入されたのは明治41年9月19日(その後、県立図書館開設に伴い移管)。皇太子が東北行啓をされたのは、同年9月8日から10月10日。そう、事前に行啓予定地を撮影していたのが理由である。

『福島県教育 皇太子殿下行啓 記念号』(福島県教育会/編・発行 1908年)の巻末に『福島県写真帖』の出版広告が出ており、店頭販売はしていなかったが、実費頒布で一部4円50銭だったということがわかる。版元の児童新聞社は「児童世界」を発行、「福島県教育」の販売も担当しており、本県教育界に関わりの深い出版社であった。

『東宮殿下行啓記念事業ノ概要』(福島県発行 1908年)によると、県内では、398もの行啓記念関連事業が実施され、そのうち図書館や文庫の開設は21にのぼった。戦前における文化施設の開設は皇室祝賀に関連した場合が多く、当館も昭和天皇の御即位記念として、昭和4(1929)年10月に開館しているので、今年で80周年を迎える。

『福島県写真帖』は当館ホームページのデジタルライブラリーにてご覧になることができる。100余年前の県内各地の様子をインターネットでご堪能いただきたい。

地域資料チーム：遠藤豊